

# 特集 I

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

### SDGs×東芝テック

東芝テックは、店舗・オフィス・物流・製造各領域の課題解決に貢献するソリューションパートナーとして、お客様とともに、SDGs達成に向けた取組みを推進してまいります。

#### 社会課題

- 地域の経済発展  
社会コストの抑制

- EC・実店舗融合
- マーケティング強化

- チェックアウト・  
決済の多様化

- エコシステム型  
社会インフラの構築

- 働き方改革・  
人手不足対応の推進

- 店舗・オフィス・物流・  
製造各領域の業務効率化・  
生産性向上

- 紙資源の節約
- 食品ロス削減

- 資源利用と廃棄を  
可能な限り削減

#### 顧客課題

- 店舗・オフィス・物流・  
製造各領域の業務効率化・  
生産性向上

- 紙資源の節約
- 食品ロス削減

#### 東芝テックグループ SDGsの取り組み



印刷した文書を「消して」、紙を「繰り返し使える」オノリーワンの技術で環境貢献

#### ペーパーリユースシステム「Loops」

「消す印刷」と「残す印刷」を1台に搭載したハイブリッド複合機「Loops」がSDGsへの貢献を称えられ、『第1回エコプロアワード主催者賞(優秀賞)』と『エコマークアワード2018(優秀賞)』をダブル受賞しました!



#### 環境への貢献

紙リユースにより紙使用量を削減。LCAでは、CO<sub>2</sub>約42%、水 約80%削減

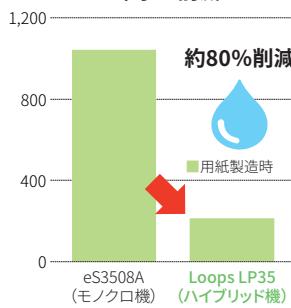
##### 1) CO<sub>2</sub>の削減



##### CO<sub>2</sub>

- 用紙製造時
- 消色時
- 印刷時
- 消色装置の素材、製造、  
輸送、廃棄、リサイクル
- 複合機本体の素材、製造、  
輸送、廃棄、リサイクル

##### 2) 水の削減



約80%削減

\*CO<sub>2</sub>削減算出条件／原単位  
使用時間：TEC値を元に算出、印刷枚数：270,000枚印刷/5年、紙再利用回数：5回、  
算定方法：第三者検証(BSIジャパン)CO2(H29/11/17 資源エネルギー庁発行のNews Release)、  
用紙(H23日本製紙連合会紙・板紙のライフサイクルにおけるCO<sub>2</sub>排出量)

\*水削減算出条件  
東京都市大学伊坪研究室の報告書を元に当社にて修正  
印刷枚数：270,000枚印刷/5年、紙再利用回数：5回  
用紙(H23日本製紙連合会紙・板紙のライフサイクルにおけるCO<sub>2</sub>排出量)

今までの印刷を  
変えずに  
紙の削減が可能



エコの見える化 紙削減効果を簡単に見える化

・管理者向け



・個人向け

# 生活利便性向上プロジェクト in 沖縄



## スマートレシートで地域経済活性化に貢献

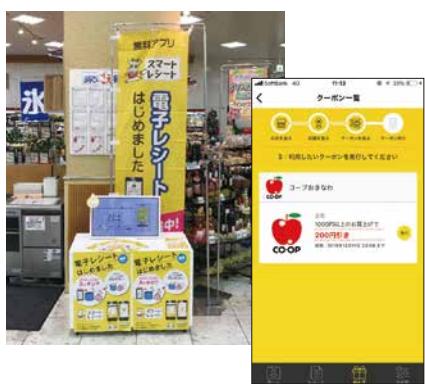
日本全国の都道府県の中でも、当社のお客様（小売店様）が非常に多い沖縄県。また、ここには「ゆいまーる（※助け合い）の精神」が強く根付いています。そんな地だからこそ、電子レシート「スマレシ」を使った生活利便性向上プロジェクトの白羽の矢が立ち、2018年9月12日から2019年4月21日までの7ヶ月にわたり実施されました。日常の買い物客、地元の9企業64店舗が参画し、スマートレシートの浸透、業種・競合の垣根を超えた店舗間の販売促進連携を実現する、国内初の大プロジェクトです。



### ◆ 店頭イベントやクーポン発行で、約7,000人の利用者を獲得！

#### 1 クーポンでコラボ販促

「電子レシートで目指す おさいふ美人」を合言葉に店頭でイベントやクーポン発行で会員募集、コラボ販促



#### 2 クーポンで相互送客



#### 3 クーポンで送受客

スーパー・マーケットの買い物客へ配布するクーポンで、飲食店へ送客



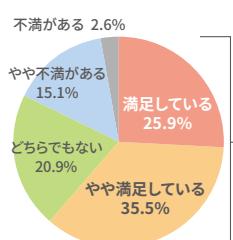
### ◆ 利用者の半数以上がスマレシに満足。買い回りも実行

Q. スマートレシート導入後、複数店舗で買い物回りしたことがありますか？

買い物回りをした会員の、26.5%が3社以上を利用	
6社	0.4%
5社	1.1%
4社	3.6%
3社	21.4%
2社	73.5%

※7社利用なし  
※8社利用は1名(関係者)

Q. スマートレシートのサービスに満足していますか？



#### スマレシの、利便性に満足

- レシート金額の集計… 57.8%
- クーポンが使用できるところ …… 54.8%
- レシートの見やすさ …… 46.2%
- レシートが届くまでの時間 …… 18.7%
- データの出力 …… 11.8%
- 全体のデザイン …… 5.6%
- その他 …… 3.4%
- 満足できる点はない… 2.1%

本プロジェクトでは、店舗の方々が定期的に会合を開き、進捗を報告し積極的に意見を交換しました。プロジェクト終了後もユーザー会として継続し、共同販促などを展開しています。スマートレシートが、業種・競合の垣根を越えて地域を活性化し、新たな価値を創造するきっかけとなりました。



## 特集Ⅱ

# サイバー攻撃から、システム・製品を守る 東芝テックのサイバーセキュリティ対策

近年、企業が保有する顧客情報や重要な技術情報などを狙うサイバー攻撃が増加している中、ITおよびセキュリティに対する適時適切な投資判断、および経営に影響を及ぼす重大なセキュリティインシデントが発生した際の迅速な対応が、企業戦略として必要不可欠になっています。

東芝テックでは、2018年4月にCISO(最高情報セキュリティ責任者)を設置し、サイバーセキュリティ対策を製品面で対応するPSIRT(Product Security Incident Response Team)、情報セキュリティ面で対応するCSIRT(Computer Security Incident Response Team)を設置し、それぞれに各事業部門から専門メンバーを加え、あらゆる面でのセキュリティに対応できるサイバーセキュリティ体制を構築しました。

## サイバーセキュリティ体制

PSIRT/CSIRTの社内連携体制に応じたインシデント対応を行うとともに、One TTECとしてCISOを中心とした情報連携体制を構築しました。情報システム、および製品・サービスにおけるサイバーセキュリティリスクに対し、迅速かつ一貫したセキュリティ対策を推進するとともに、CISOの下で、サイバーセキュリティに対するガバナンスを強化しています。



### CISO 執行役員 江口 健からのメッセージ

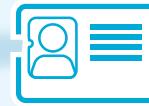
初代CISOとして、東芝テックグループの製品セキュリティおよび情報セキュリティの強化に取り組んでいます。当社の製品は、ネットワークに接続される機器が多数あり、このセキュリティ強化施策を進めることは、当社のお客様の資産をお守りする上でも非常に重要です。経済産業省も「サイバーセキュリティ経営ガイドライン」を策定するなど、社会的にもセキュリティに対する要求が高まっており、当社もサイバーセキュリティ体制を構築して強化施策を推進しております。今後もより一層のセキュリティ強化を図り、お客様に安心してお使いいただける製品を作り出していきたいと考えております。

## 当社製品のサイバーセキュリティ対策

### デジタル複合機 e-STUDIOシリーズ

デジタル複合機はストレージ機能を持ち、ネットワークから文書データの保管・保存および読み出しや、メール機能により文書の送信もできます。オフィス文書には個人情報やプライバシー情報、企業情報などの機微情報が多く含まれ、それらの情報（情報資産）をサイバー攻撃から保護することが必要となります。このため、デジタル複合機e-STUDIOシリーズは、ユーザ認証／カード認証、アクセス制御、Wipe機能付暗号HDD、ネットワーク通信の暗号化、ファームウエアの完全性保証、セキュアプリント機能、監査ログ機能、誤送信防止等々、数多くのセキュリティ機能を搭載しユーザの情報資産を保護しています。

デジタル複合機e-STUDIOシリーズは、複合機として最高レベルのセキュリティ基準HCD-PP(Hard Copy Device- Protection Profile)に適合したCommon Criteria(CC)認証を取得しました。CC認証は情報セキュリティのための国際評価規格で、IT製品が備えるべきセキュリティ機能が適正に開発されているかを評価する規格です。また、HCD-PPは難易度の高いFIPS140-2と同等レベル暗号モジュールに使用を要求しています。HCD-PPに適合したCC認証を取得したことにより、強固なセキュリティ性を持つデジタル複合機として第三者機関から認められ、今後一層の普及が期待されます。



MFP内の全ての保護資産が、暗号で保護されています。  
Network上に流れるデータもTLSやIPsecで保護できます。

標準で、Wipe機能付Opal SED HDDを採用しています。HDDを盗んで不正にデータの読み出しを行おうとすると自動的に暗号鍵が消去される機能が有り、HDD内の全てのデータを盗難による漏洩から保護します。

#### HCD-PPセキュリティ機能

- ・利用者の識別認証機能
- ・アクセス制御機能
- ・暗号化通信機能
- ・自己テスト機能
- ・監査機能
- ・アップデート検証機能
- ・ストレージ暗号化機能
- ・FAX回線・ネットワーク分離機能
- ・上書き消去及び完全消去機能

### 決済端末 CT-5100シリーズ



決済に用いられる方法は多様化しており、その代表的なものがICカードによるクレジットカード決済です。クレジットカード決済ではクレジットカード番号、個人情報等のセンシティブな情報が扱われており、サイバー攻撃によりこれらの情報が漏えいし悪用されるとクレジットカード利用者に多大な損害が発生する可能性があるため、日本政府は、クレジットカード決済を国民生活に重大な影響を与える重要インフラ14分野の1つとして指定しています。

開発・製造を行うメーカーは、それぞれ独自のセキュリティ基準の決済端末を製造・販売していましたが、2006年には5つの国際ペイメントブランドによってPCIセキュリティ基準審議会(PCI SSC: Payment Card Industry Security Standard Council)が設立され、国際セキュリティ基準が制定されました。その規格の1つにPCI PTS(Payment Card Industry PIN Transaction Security)があります。PCI PTSはPIN(暗証番号)入力を行う決済端末に求められる高難易度のセキュリティ認定です。

決済端末CT-5100シリーズへ接続するPINパッド「PADCT-5100」は、クレジットカード決済を安全に行うためのPCI PTS Ver4.1認定を取得済みです。PCI PTSは決済端末で必要となるソフトウェアやハードウェアのセキュリティ機能や製品管理などの要件が幅広く規定されています。また、本体の「CT-5100」も、AndroidやLinux等のオープンなOSではなくクローズドなOSを採用し、搭載される全てのソフトウェアに認証および暗号機能を搭載していますので、外部からのハッキングに対して強固なセキュリティ性を保持しています。また、外部からの不正なアタックに対する耐タンパー機能も備えていますので、安心して利用できます。



CT-5100(本体)

PADCT-5100  
(ICカードリーダライタ付  
PINパッド)

